

議長	副議長	事務局長	副参事	係長	係員

令和5年5月24日

三沢市議会

議長 堀 光 雄 殿

三沢市議会

議員 久保田 隆

議員 船見 昌功

議員 小比類巻 孝幸

議員 下山 光義

議員 加澤 明

議員 瀬崎 雅弘

議員 堀 光雄

議員 佐々木 卓也

議員 小比類巻 雅彦

議員 馬場 駒一

議員 森 三郎

#### 議員個人研修の復命について

先に議員個人研修を行った結果について、下記のとおり復命いたします。

#### 記

1. 期 間      自 令和5年5月14日（日）  
                  至 令和5年5月16日（火）

#### 2. 観察先

- (1) 三重県伊勢市役所（令和5年5月15日（月）午前10時00分～）
- (2) 三重県松阪市役所（令和5年5月15日（月）午後 1時30分～）

#### 3. 観察事項 (1) 三重県伊勢市役所

- ・観光振興に向けた取り組みについて

#### (2) 三重県松阪市役所

- ・教育環境の改善に向けた取り組みについて

#### 4. 詳 細 別紙のとおり

(別 紙)

### 【伊勢市対応者】

伊勢市議会 品川 幸久 議長

伊勢市産業観光部観光振興課 吉居 寛典 課長

東 良二 主幹兼観光企画係長

### 【伊勢市の概要】

三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置しており、北は伊勢湾に面する温暖な気候の下で、米を主体に野菜、果樹、花きなど沢山の特産物を生産している。令和5年に「伊勢わいん特区」認定を国から受けるなど、特産物の付加価値化にも力を入れている。また、伊勢志摩国立公園の玄関口にあたり、伊勢神宮には江戸時代より全国から参拝者が訪れる三重県を代表する観光地である。指定文化財件数は200件以上、おかげ横丁などの観光スポットや伊勢うどん、赤福餅などの名産を持つ。平成17年に近隣3町村と合併し、市域面積208.37km<sup>2</sup>となった。令和2年の国勢調査人口は122,765人である。

#### 観光振興に向けた取り組みについて

##### 【説明概要】

###### 1. 背景・目的

伊勢市は、古くから「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、「神宮ご鎮座のまち」として栄えてきており、年間約800万人の参拝者数がある。また、第62回神宮式年遷宮が執り行われた2013年（平成25年）には、参拝者数は過去最高の約1,420万人を記録した。式年遷宮は、約20年に一度執り行われ、これまで約1,300年以上続いており、そこに向けた街づくりを官民協力でしてきた経緯がある。今後は、次期式年遷宮に係る諸行事の開始を視野に入れつつ、4年間に取り組む方針をまとめ、社会動向やニーズに即した新たな「伊勢市観光振興基本計画」を2022年（令和4年）に策定した。

###### 2. 内容（質疑に対する応答の内容を含む）

###### （1）高付加価値化に向けた取り組みについて

観光庁によると、地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化を推し進め、宿泊施設、観光施設等の改修、廃屋撤去、面的DX化等の取組みの支援について、計画的・継続的に支援できるよう制度を拡充するとし、コロナ禍か

らの需要回復、地域活性化のためには、地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化を図るとある。伊勢市では、令和4年に「伊勢市観光振興基本計画」を策定。コロナ禍で落ち込んだ神宮参拝者数を復活、さらに市内宿泊者数を増加させていく目標を立て、次の5つの基本理念を定めた。

- ① 日本を理解し、伊勢の“常若の精神”を理解してもらう
- ② さまざまな人が安全に安心して楽しめるまち
- ③ 訪れる人が満足できるまち
- ④ 住む人も満足ができるまち
- ⑤ 観光を通じて経済的効果を高める

#### 景観による高付加価値化

内宮おはらい町のまちづくりについては、昭和54年に地元商店主を中心に「内宮門前町再開発委員会」を立ち上げ、行政は「まちなみ保全事業」（平成元年～平成21年）として、低金利での資金の貸し付けを行った。また、平成21年に「伊勢市景観計画」を策定、市内を重点地区・沿道景観形成地区・一般地区の3つの区域に区分し景観形成を図っている。内宮エリアでは、伊勢らしいまちなみの保全と再生のため住民・事業者・自治体等が一体となり長期的に景観整備を実施。外宮エリアでは、修景整備や地元事業者主体によるイベント開催等により、ソフト・ハードの両面においてまちづくりを推進。二見エリアでは、伊勢神宮にまつわる歴史を拝見にしたまちなみ景観を形成。

#### バリアフリー×観光による高付加価値化

平成23・24年度：宿泊施設のバリアフリー化を支援（補助率2分の1、上限400万円として17施設に2,324万8千円）

平成23年度：トイレマップ作成

平成25年度：手話ガイドボランティア研修

平成26年度：おはらい町・外宮参道バリアフリー観光マップ作成

平成27年度：手話観光模擬ガイド実施

平成28年度：お伊勢さんマラソンに障がいのある方も参加できるよう、「バリアフリーランの部」を新設

平成29年2月：移動に不安のある障がいのある方が内宮御正殿を参拝できるよう「伊勢おもてなしヘルパー」を推進。階段を歩いて上がれない方を車いすに乗ったままで持ち上げ、参拝するお手伝いを有償サービスで行っている。

## インバウンド

令和4年、観光庁により総合的な施策を集中的に講じるモデル観光地「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル観光地」に選定され、インバウンド受け入れ体制の強化を推進している。観光案内書にはデジタルサイネージを設置。クリエイター招聘及び情報発信（アメリカから2名を招聘し、滞在を通して文化や歴史等の魅力を映像化し、YouTube や SNS 等で発信）、外国人短期留学生招聘及び情報発信（皇學館大学と協働し、欧米圏の学生を対象に、留学生として伊勢について学ぶプログラムを実施し、SNS で世界に伊勢を発信）、多言語パンフレットの作成（英語・フランス語・中国語・韓国語・タイ語の観光パンフレット作成）等を実施している。

## 滞在価値向上

オンラインツアーや造成促進事業、クリエイターズ・ワーケーション促進事業（宮本亜門氏、松尾貴史氏、相川七瀬氏等、各分野の最前線で活躍するプロクリエイターを公募、招聘し、市内宿泊施設にて6泊から13泊の宿泊をしながら創作活動に取り組む機会を提供し観光PRにつなげる）、混雑状況配信（市内主要観光地7か所に定点カメラを設置しリアルタイム配信）、LINE公式アカウント「Desika：伊勢でしか」を運用。また、電動アシスト型レンタル自転車を導入し、官民連携での市内周遊を促進している。

## （2）事業者向け研修について

伊勢市・伊勢市観光協会・伊勢市商工会議所が連携し、2011年から観光産業従事者のスキルアップを目的として、おもてなしの心構えやバリアフリー、インバウンド等をテーマに継続的に研修を実施。また、多様な観光ニーズへの対応についてアドバイザーを派遣している。また、障がいの特性を知り、障がいのある人が困っていることや必要とする配慮を理解し、日常生活でちょっとした配慮を実践する「障がい者センター」制度への登録や障がいのある人のチャレンジを応援したい「障がい者就労体験サポート事業」のクラウドファンディング（寄付金額112万8千円）を行っている。

## （3）伊勢外宮参宮みやげの開発について

神々の食を司り、五穀豊穣や子孫繁栄を祈り続けた外宮に感謝し、伊勢まちづくり株式会社を中心に地域の事業者に参加を呼びかけ、商品開発支援をし「外宮

「参宮みやげ」を開発した。また、統一感を持たせるために、ロゴやテキスタイルを定めている。

### 【所 感】

日本有数の観光名所「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」として親しまれてきた「伊勢神宮」を擁し地元事業者や行政は、全国や世界各国からの参拝客、観光客を迎える、経済効果を生んでいたと思っていましたが、時代の変革とともに町は寂れ、戦後には通り過ぎるだけの観光地となった時代があったことに驚きました。その窮地に、地元の30~40歳代約20人で「内宮門前町再開発委員会」を昭和54年に発足させ、民間主導でまちづくりを進め、そこに行政の後方支援があり、今の伊勢市のまちを形成し、また、神宮式年遷宮の催行に合わせまちづくりを推進し、20年ごとに街に活気をもたらしていることから、計画性を持ち官民共同で取り組んでいると感じました。また、伊勢市と伊勢市商工会議所、伊勢市観光協会にて各種事業を共同で行っており関係性は密接であり、バリアフリーに関しては伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと共に・集約し情報発信しているが、食の部分に関しては入れ替わりが激しくまだ十分ではなく課題があるとのことでした。

世界に誇る日本の観光名所に胡坐をかくことなく、危機感とプライドを持ち、先を見据えたまちづくりに取り組んでおり、何よりも「住む人も満足できるまち」を目指し、SDGs(持続可能な開発目標)と、伊勢の「常若の精神」を掛け合わせ、伊勢市の今後のるべき姿の実現を目指していることは、大変参考になりました。今回視察した事項について、三沢市でも導入が可能なものについては参考として、積極的に議員活動に取り組んでまいります。

【視察写真】



## 【松阪市対応者】

松阪市議会 山本 芳敬 議長

松阪市教育委員会事務局

金谷 勝弘 次長

御堂 栄治 子ども支援研究センター所長兼松阪市教育支援センター所長

小泉 恵希 学校支援課長

中村 太輔 学校支援課生徒指導係長

脇 清人 子ども支援研究センター研修・ICT 教育係長

## 【松阪市の概要】

平成 17 年に 1 市 3 町が合併して、623.6 km<sup>2</sup> の三重県で二番目の市域面積を持つ新松阪市が誕生した。令和 2 年の国勢調査人口は 159,145 人。歴史的には、国内最古の土偶が出土した粥見井尻遺跡や西日本最大級の祭祀場を有する国指定史跡の天白遺跡など縄文時代からの繁栄の跡が残り、江戸時代には三井家をはじめとした豪商の街として繁栄しており、現在も三重県の経済拠点となっている。ブランド牛として知られる松阪牛や「松阪もめん」などが特産品である。

### 教育環境の改善に向けた取り組みについて

#### 【説明概要】

##### 1. 内容

###### (1) ICT を活用した教育の推進について

2011 年から、市内小中学校へのタブレット整備を試験的に進めてきており、その運用ノウハウを活かし、松阪市の GIGA スクールを推進している。端末補償や学校 ICT の運用サポート体制の構築、アプリケーションの使用料の徴収など、様々な環境整備を行っており、また、タブレット活用として、長期休業中の持ち帰り学習や、学習ログの活用を行っている。

###### (2) いきいき学校プロジェクトについて

コロナ禍において不登校児童生徒が増加していることから、不登校の未然防止、居場所づくりと教室復帰支援および ICT 活用の 3 つの項目を柱とし、児童生徒への支援を行っている。

- ① 未然防止：教職員のスキルアップ、シンプルプログラム
- ② 居場所づくり：校区ふれあい教室の設立

③ ICT 活用：オンライン学習等による学力保障、理解度に応じた個別最適な学び、興味関心に応じた探究活動

## 2. 質疑応答

Q. タブレットの持ち帰り学習は、どのようなルールで運用しているのか？

A. フィルタリングソフトを入れており、YouTube などの特定の Web サイトを閲覧できないようにしている。また、一律で夜の時間は使えないようにルールを決めてはいるが、それ以外のルールは各家庭の判断に任せている。

(1日のタブレットの使用時間は各家庭でルールを決めて貰っているなど)

Q. ハートケア相談員、学校生活アシスタント、母語スタッフの必要な資格は？

A. ハートケア相談員は基本、免許取得者（教員、看護師など）を募集している。学校生活アシスタントに必要な資格はない。母語スタッフは必要な言語を扱える、日本に住んでいる外国籍の方が多い。

## 【所感】

### (1) ICT を活用した教育の推進について

松阪市は小、中学校におけるタブレットの持ち帰り学習が既に実施されており、家庭での理解度も高いとのことであり、教育環境でのタブレット活用に対する成功事例を視察することができました。三沢市においても、家庭でのタブレット活用について、持ち帰りのルール作りなどの検討をしていく必要性を感じました。また、今後の ICT の進化に伴って、教育現場でも求められるスキルが複雑化することから、当市においても、松阪市の学校 ICT 運用サポート体制などを参考にして、教職員が異動しても持続できる様な ICT 教育の体制作りにも取り組むべきであると感じました。

### (2) いきいき学校プロジェクトについて

不登校の未然防止策として、児童生徒のソーシャルスキルトレーニングなどの人間関係に対する知識や技術を身につけることが有効であるとのことでした。三沢市においてもこのようなトレーニングの試験的導入を検討していくべきと感じました。

今回視察した事項を参考として、積極的に議員活動に取り組んでまいります。

【視察写真】



